

研究所

明治学院大学 社会学部付属研究所

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37 TEL03-5421-5204・5205

所長 柏植あづみ

30号

だい

よ

り

メールアドレス jssw@soc.meijigakuin.ac.jp ホームページ <http://soc.meijigakuin.ac.jp/fuzoku/>



contents

1 所長ごあいさつ
社会学部付属研究所所長
柏植あづみ

2 調査・研究部門

3 相談・研究部門

4 学内学会部門

5 市民講座報告 / 研修会案内

6 2016年度社会学部付属研究所
プロジェクトの紹介

7 2016年度社会学部付属研究所
スタッフの紹介

1 研究所長に任せられ、瞬く間に
4か月が過ぎました。新年度には
各学科の教員からなる研究所員が交代
し、研究所のスタッフは、教学事務ア
シスタントと調査研究部門の研究調査
員が交代しました。手探りでなんとか
前に進んでいます。

この原稿を準備している短期間に、
アメリカ・フロリダ州のゲイバーでの
銃乱射事件、トルコ空港での爆発と銃
撃、バングラデシュ・ダッカでのテロ
では日本人7名を含む20名が犠牲にな
り、さらにイラク・バグダットでの子
どもを含めて120名を超える犠牲者と
行方不明者がでたテロが勃発しました。
他の立場や意見を尊重せずに自分たち
の主義主張を押し通し、人命を軽んじ
る行為に強く憤ります。お亡くなりにな
られた方に哀悼の意を表し、心身ともに
大きな傷を負われた方のご快復をお祈りします。

テロ以外にも、欧州では移民・難民
をめぐる意見の対立が表面化していま
す。イギリスのEU（欧州連合）からの
離脱投票の結果もその一端です。フラン
スやドイツでも移民排斥を主張する
勢力が力を増しています。アメリカでは
大統領選挙をめぐって、移民をめぐる
対立と経済格差を生み出す社会体制
への疑問が呈されています。日本国内
でも、ヘイトスピーチやネット上の
外国籍住民の中傷と排斥が続いている。

先日、「ファティマ／Fatima」とい
う映画を観ました。アルジェリアから
フランスに移民し、離婚して娘2人を
育てている女性ファティマの物語です。
差別や偏見にあいながらも、娘には教
育を受けさせたいと、早朝から夜まで
掃除や家政婦の仕事をしてわずかな賃
金から進学費用を捻出します。孤独を
癒すために苦手なフランス語では伝え

（中面へ）

られない気持ちをアラビア語で綴ります。詩のような美しい文章から彼女の生があらわれてきます。「移民」「外国人」といった括りではなく、そこで生活している人々として見ることができない社会をどうしたら変えることができるのでしょうか。

さてそれでは、社会学部付属研究所では何ができるのか。今年は社会学部付属研究所が、港区民大学講座（大学公開講座）を企画します。テーマは「災害に備える—多様性のある社会で互いを尊重するコミュニティをめざして—」です。大都市に災害が起きるとき、被災者の多様さは想像を越えます。高齢者や乳幼児とそのケアをしている人、病気や怪我をしている人、障害を持つ人、ジェンダー／セクシュアリティやエスニックグループなどを考慮した避

難所運営や支援の備えはできているでしょうか。被災した地域に土地勘のない人、日本語がわからない人などもいます。それらを考慮したときにどんな備えが必要になるのか。一緒に考えるきっかけとするために外部講師を招いて社会学部の教員と対談していただきます。詳細はホームページの「明治学院大学 港区民大学」案内をご覧ください。社会学部では教養教育センターと共同で「内なる国際化」プロジェクトも進んでいます。これも多文化共生を目指すプロジェクトです。

「多様性」と他者の尊重が容易いことではありません。それでも、実践につなげる「知」を得る機会にしたいと思っています。

追記：障害者福祉施設での殺傷事件の報を受け思ひを強くしています。

研究所各部門

2 調査・研究部門

「調査・研究部門」は、社会学・社会福祉学の調査・研究プロジェクトを中心活動しています。その柱の一つは「一般プロジェクト」という科研費などによる研究の準備、補助、展開を目的とする単年度計画の研究です。これは、単独または少人数のスタッフによって個別に進められており、2016年度実施中のプロジェクトおよび代表者名は以下の通りです。

「南アジアにおける立正佼成会の展開」（渡辺雅子）、「恋人獲得をめぐる競争行動が起きる状況要因の検討」（鬼頭美江）、「現代政治思想におけるポスト・コミュニタリアニズムの展開可能性」（坂口緑）、「東京都葛飾区における住民福祉活動の現状と今後の方向性に関する研究」（河合克義）、「自殺対策の歴史社会学的検討」（元森絵里子）、「生活困窮者自立支援従事者的人材育成方法に

から

関する研究」（新保美香）、「ステップファミリー支援プログラムのためのセミナー企画」（野沢慎司）、「生物学的思考とジェンダー概念との関係をめぐる文献学的研究」（加藤秀一）、以上8件。

また、社会学部付属研究所は創立以来、多くの共同研究を行ってきました。21世紀からは「特別推進プロジェクト」という名称のもと、両学科のスタッフを中心に学外からも多数の研究者の参加を得て、継続的に実施しています。これらの実績については研究所のサイトでも見ていただくことができます。

2014～2016年度には「大災害と社会—東日本大震災の社会的影響と対策の課題」と題して実施してきました。東日本大震災の被害を受けた地域では、時間経過とともに避難や生活再建などをめぐる新たな課題にも直面しています。そこには、過疎化、高齢化など事故以前から存在した困難が深くかかわっています。このプロジェクトでは、こうした普遍的課題にも視野を広げつ

つ、地域社会が抱える問題や各地での取り組みについて見てきました。メンバーが震災以来それぞれに進めてきた研究を受け継いだこともあり、これまでの特進プロジェクトに比べると内部での独立性が高いものになっています。各グループの研究テーマと担当者は以下の通りです。「被災地域の復興計画」（浅川達人）、「低頻度大規模災害の倫理学」（稻葉振一郎、保田幸子）、「被災で明らかになった福祉施設の課題」（岡本多喜子）、「北海道南西沖地震の被災地・奥尻島における復興と教訓」（清水浩一）、「被災住民の経験語りと復興過程で可視化した諸問題」（柘植あづみ、吉田優貴）、「福島原発被害をめぐる地域再生と生活再建に向けた課題」（藤川賢）、「三陸津波と自治体行政」（水谷史男、石川雅典）。研究成果はすでにいろいろな形で公表されていますが、『研究所年報』47号（2017年2月）にも特集として発表の予定です。また、両学科の特講として開設されている科目「災害と社会」、今秋に社会学部付属研究所の主催で予定される「港区民大学講座」などにも研究の一部が関連しています。

2017年度からは新たなテーマでの特別推進プロジェクトがスタートする予定で、現在準備を進めているところです。

（主任 藤川賢）

3 相談・研究部門

この四月から何年かぶりに相談部主任に返り咲くことになりました深谷です。当時は地域こぞって子育て懇談会たけなわの頃でしたが、今回返り咲いてみるともうすでに港区地域こぞって子育て懇談会は「一般社団法人みなとこぞってネットワーク」に移行されることになっており、今年度は後方支援は残っているものの、親離れし一人立ちしていく姿を目にすることになりました。隔世の感があります。

活動スキルアップ講座、市民講座は一本化し、「地域創り担い手講習会」として地域の多様な家族が孤立しないためにできること、という共通テーマを掲げました。九月の第一回目はステップ・ファミリー、第二回目はひきこもる若者、三回目は介護離職という今日的な主題のもとにそれぞれ活動している方をお呼びして話をうかがう予定しております。

卒業生のための「アドバンスト・コース」は「ソーシャルワーカーの実践力の活性化」として、実践現場で日々課題と向き合うソーシャルワーカーが想像性と創造性をフルに活用し、専門職として実践力をより一層活性化するにはどうすればよいかを共に考えるという企画を立てております。当初は多様な問題を抱えた事例をどのようにアセスメントするかというテーマを講師に持ちこみましたが、講師の方のユニー



▲2015年度研修会



クな料理方法から(笑)、こうなりました。ちなみに講師は現場で圧倒的な支持者を持つ、ルーテル学院大名誉教授福山和女先生を予定しています。

大学で取り組まれている「内なる国際化」についても、相談部としては業務として可能な限り協力させていただくことになりました。

(主任 深谷美枝)

4 学内学会部門

学内学会部門は社会学部の学生・卒業生・教員によって構成されています。学生の組織である学生部会と卒業生部会とが様々な活動を企画し、実施しています。それらの一部を紹介します。

●印刷物の発行：年に1回「学内学会会報」と雑誌『Socially』を発行しています。編集担当となった学生と教員とでテーマを検討し、取材をしてこれらの印刷物を発行しています。

「学内学会会報」は学内学会の1年間の活動報告としての意味を持っています。また年1回開催される「学内学会総会」と「講演会」の案内も兼ねております。

雑誌『Socially』では学内学会員による投稿論文の掲載、各先生方のゼミ紹介、卒業後に社会学部生がどのような生活をしているかを現役学生がインタビューをする企画もあります。また毎年、各ゼミ単位で卒業論文のテーマと執筆学生名を掲載しています。

●研究発表会：この企画は一番、学内学会らしいものです。年に1回、秋に開催します。学部生・大学院生・卒業生が、個人やゼミ単位でこれまでの研究成果を報告する場です。参加者が徐々に増えているのは、とてもうれしいことです。

●学習支援：学生部会の学生による新入生ガイダンスの支援、ゼミ選択やコー

ス選択への支援も毎年実施しています。1年生や2年生で自分が社会学部でどのような勉強をすればよいのか、どの先生のゼミに入ればどのようなことを学べるのかなどを、学生部会の方々が先輩としてアドバイスをする活動です。将来の進路に迷っている学生などにとっては、社会学部生としての生活を有意義に過ごすための強い味方となる活動です。



▲スポーツ大会、みんながんばりました



▲学内学会会長・北川学部長からのご挨拶

●スポーツ大会：毎年5月に行う社会学部のゼミや仲間でチームを組み、それぞれのチーム対抗のスポーツ大会です。この企画も学生が中心に行っています。

●卒業生と在校生の交流会：『Socially』には卒業生インタビューがあると書きましたが、実際に卒業生と会って話を伺う企画が交流会です。社会学部生として、自分の将来を考えるひとつのモデルが卒業生の活躍ではないでしょうか。卒業してからそれ程の年月が経っていない先輩や、ある程度の年月が経った先輩から直接お話を伺える機会は、とても貴重な経験となるでしょう。

●その他：自主企画として映画上映会や講演会が行われます。

このように多彩な活動をしている学内学会ですが、いろいろな事情で現在、体制の見直しが必要になっています。学生・卒業生・教員という会員にとつてよい魅力的な学内学会を作り上げたいと思っています。

(主任 岡本多喜子)

5 市民講座報告 / 研修会案内

2013 年度以降「社会的孤立」という課題に、市民も地域活動者も社会福祉実践家も、どう立ち向かったらよいか、そのための実践を模索しています。2015 年度は、研究者による課題提起を共有した上、参加者間でディスカッションする機会（市民講座「～社会的孤立問題を考える～分野を超えた課題提起から糸口を探る」）をもちました。課題提起は、松原康雄「子ども虐待問題から」、河合克義「ひとり暮らし高齢者調査から」、浅川達人「フードデザート（食の砂漠）問題から」（以上すべて本学社会学部教授）より行いました。57 名の参加を得て、活発に意見交換をしました。

定例の「港区地域こぞってネットワーク会議」は 6 月、「港区地域こぞって子育て懇談会」は 1 月に開催し、前者は 58 団体 86 名、後者は 159 名が参加しました。懇談会は 10 回を積み重ね、立場をこえた対話の場として、今回も 5 つの井戸端会議（分科会）=「多世代・



▲2015 年度市民講座

地域・つながり～10 代と話そう！子どもっていつから大人？～」「＜親子参加型企画＞みんな集まれ！ふれあい遊びを楽しもう」「子どもの孤立～大人が知らない子どもの実態～」「就学前の子どもとのすごし方～ライフスタイルの違いをこえて～」「小学生になるとどう変わる？～知りたい！話したい！～」を開催しました（報告書ご希望の方は社会学部付属研究所までご連絡ください）。

2015 年度の活動スキルアップ講座は、ボランティア活動者等から聞こえてくる活動上の課題（仲間とうまくやりたい等）を取り上げ、「チーム・ビルディング」をテーマに学ぶ場を開催しました。

「第 30 回社会福祉実践家のための臨床理論・技術研修会」 テーマ「ソーシャルワーカーの実践力の活性化」

日時：2016 年 10 月 15 日（土）

内容：

■オリエンテーション

（10:00～10:15）

■全体ワークショップ

（10:15～15:30）

講師：福山和女

（ルーテル学院大学名誉教授）

■ネットワーク懇親会

（15:30～16:30）

会場：明治学院大学白金キャンパス

●連絡先

明治学院大学社会学部付属研究所

〒108-8636 港区白金台 1-2-37

Eメール issw@soc.meijigakuin.ac.jp

TEL 03-5421-5204・5205 FAX 03-5421-5205

6

2016年度社会学部付属研究所 プロジェクトの紹介

■一般研究プロジェクト

☆南アジアにおける立正校成会の展開
(代表 渡辺雅子)

☆恋人獲得をめぐる競争行動が起きる
状況要因の検討 (代表 鬼頭美江)

☆現代政治思想におけるポスト・コミュニタリアニズムの展開可能性
(代表 坂口緑)

☆東京都葛飾区における住民福祉活動の現状と今後の方向性に関する研究
(代表 河合克義)

☆自殺対策の歴史社会学的検討
(代表 元森絵里子)

☆生活困窮者自立支援従事者の人材育成方法に関する研究
(代表 新保美香)

☆ステップファミリー支援プログラムのためのセミナー企画
(代表 野沢慎司)

☆生物学的思考とジェンダー概念との関係をめぐる文献学的研究
(代表 加藤秀一)

■特別推進研究プロジェクト

大災害と社会—東日本大震災の社会的影響と対策の課題

7

2016年度社会学部付属研究所 スタッフの紹介

所長	柘植あづみ
調査・研究部門主任	藤川 賢
相談・研究部門主任	深谷 美枝
学内学会部門主任	岡本多喜子
所員	浅川 達人
所員	安井 大輔
所員	八木原律子
所員	明石留美子
所員	野沢 慎司
所員	岡 伸一
所員	佐藤 正晴
研究調査員（調査・研究部門）	渡部 瑞希
ソーシャルワーカー（相談・研究部門）	武田 玲子
副手	平野 幸子
教学補佐	高橋 由加
学内学会部門事務担当	佐々木敬子